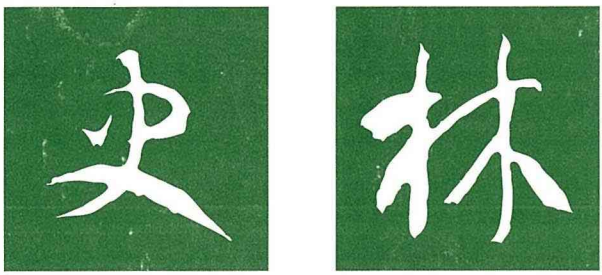
史林



二〇〇九年一月二五日印刷
二〇〇九年一月三一日発行

第92巻　第1号　史学・地理学・考古学

特集　環境

史学研究会
京都大学大学院文学研究科内

特集「環境」によせて……南　川　高　志（1）

論　　説

日本中世における水辺の環境と生業……橋　本　道　範（4）
——河川と湖沼の漁撈から——

清濁灌漑方式が持つ水環境問題への対応力……井　黒　　忍（36）
——中国山西呂梁山脈南麓の歴史的事例を基に——

ブルーノ・タウトとベルリンの住環境……北　村　昌　史（70）
——一九二〇年代後半のジードルンク建設を中心に——

大戦間期イギリス帝国における
グローバルな環境危機論の形成……水　野　祥　子（97）

マレーシア・サラワク州における
環境改変と「環境問題」……祖　田　亮　次（130）

思想環境としての郷土研究……鶴　見　太　郎（161）
——橋浦泰雄の民俗調査——

研究動向

先秦時代の内蒙古東南部における考古学的諸文化……吉　本　道　雅（195）
——近年の環境考古学的研究に寄せて——

気候は歴史学研究の分析要因となりうるか？……永　田　諒　一（214）
——ヨーロッパ近世の小氷期の場合——

書　　評

田和正孝編『石干見 最古の漁法』
（ものと人間の文化史 135）……佐　野　静　代（240）

小林茂著
『農耕・景観・災害——琉球列島の環境史——』……月　原　敏　博（245）

Patrick Matagne, *Aux origines de l' écologie: Les naturalistes en France de 1800 à 1914*……中　山　　俊（251）

Frank Uekoetter, *The Green and the Brown: A History of Conservation in Nazi Germany*……岡　内　一　樹（259）

紹　　介

藤木久志編『日本中世気象災害史年表稿』……山　田　雄　司（267）

2008年度史学研究会大会講演要旨

2008年度史学研究会大会・総会の記録

たがって、「ヨーロッパ」史の脱構築がまず必要である。はじめから「ヨーロッパ」とその歴史があったと考えず、いわゆる「イスラーム世界」の歴史も含めてユーラシア西方地域の過去に起こった諸事象を丁寧に解きほぐしパーツにばらして、全体を新しい世界史の視点からもう一度解釈し組み立て直してみればどうだろう。「中華」という概念に基づいて構想された中国史についても同様の手続きが必要である。これまでの国、文明ごとの歴史研究の成果を「一体の世界」の歴史という観点から見直せば、そこに浮かび上がる過去の解釈と叙述は、これまでの世界史とは相当異なったものとなるはずである。

二〇〇八年度

史学研究会大会・総会の記録

史学研究会の二〇〇八年度大会・総会は、一一月二日（日）一三時から一七時まで、京都大学文学部新館において開催された。

総会では、藤井譲治理事長による挨拶の後、横山良氏を司会に選出して、庶務・編集・会計・広報に関する報告がなされた。

庶務（中砂明徳常務理事）からは、役員の交代、今年度の例会実施、会員数・史林送付数の動向などについて報告があった。また、来年四月十八日（土）の例会開催（テーマ「戦争」）が案内された。

編集（南川高志常務理事）からは、『史林』が順調に刊行されていること、委員の増員・副査制度の整備など編集体制の強化を図っていること、本年四月に開催された「環境」をテーマとした例会の発表と討論が第九十二巻一号の特集号にまとめられる予定であることが報告された。

会計（泉拓良常務理事）からは、二〇〇八年度予算、会費滞納者の退会規定作成の準備、東京堂への委託販売の実績、振込み用紙の封入を来年度から年二回（三月刊行の二号、一一月刊行の六号）とすることが報告された。

これに引きつづき、公開講演が行なわれた。講演は次の二本であった。

上原　真人　氏
「歴史情報源としてみた瓦」

羽田　正氏
「イスラーム世界と新しい世界史」

講演者紹介と司会は、それぞれ泉拓良理事と濱田正美理事がつとめた。講演内容は本号に掲載されているが、ともに熱のこもった報告であり、日曜日であるにもかかわらず一〇四名の聴講を得ることができた。

公開講演ののち、吉本道雅理事が閉会の辞を述べた。大会終了後、オープンな立食形式の懇親会が開かれた。

なお、総会と大会に先立って開催された秋期理事・評議員会において、庶務・編集・会計・広報の各常務理事から会務報告があったほか、次の八名が編集委員に加わることが了承された。

吉川真司、吉本道雅、濱田正美、小山哲、上原真人、永井和、杉本淑彦、米家泰作

（文責　中砂明徳）

『史林』投稿規定

（二〇〇八年一一月改定）

◇資格　本会会員であること。

◇投稿受付原稿の種類、長さ

論説　1段組54字×19行の体裁で、三二〇〇〇字以内

研究ノート　2段組29字×20行の体裁で、二〇〇〇〇字以内

研究動向　2段組29字×20行の体裁で、

三二〇〇〇字以内

史料紹介　2段組29字×20行の体裁で、三二〇〇〇字以内

書評・論文評　2段組、八〇〇〇字以内

紹介　3段組、一二〇〇字程度

◇いずれにおいても、本文や注だけでなく謝辞や図表・翻刻を含めて、それぞれの紙幅に収めること。

◇注は各章末に入れること。

◇「欧文タイトル」を添付すること。

◇論説には「要約」（四〇〇字以内）を添付のこと。「要約」は上記の紙幅制限の対象外とする。

◇論説および研究ノートの投稿者は、掲載が決定した時点で、「欧文要約」（六〇〇～八〇〇語程度）を提出すること。なお、英文要約に限り、翻訳による作成依頼にも応じるが、経費は投稿者負担とする。

◇査読用に複本（原本からコピーしたもの）1部を添付すること。

◇電子データがある場合には、下記「補足」の〈電子データ添付要領〉に従って添付すること。

◇図版が必要な場合は、下記「補足」の〈図版作成要領〉に従って作成、添付すること。

注意：特殊な図表を掲載したり、特殊活字を用いる場合には、その印刷経費の一部を負担していただくことがあります。

送り先：史林編集委員会

〒606-8501　京都市左京区吉田本町

京都大学大学院文学研究科内　史学研究会

『史林』投稿規定「補足」

〈電子データ添付要領〉

・電子データは、フロッピーディスク・CD-R・CD-RWのいずれかのメディアに保存して提出すること。

・本文の電子データは、マイクロソフト・ワード、一太郎、テキストファイルのいずれかの形式で保存し、保存形式（OSおよび使用ソフト）を明示すること。

・図版に電子データを使用する場合には、ソフト（IllustratorやPhotoshopなど）やバージョンについて事前に照会・確認をすること。

〈図版作成要領〉

・本文原稿中に図版の割付箇所を注記すること。

・仕上寸法は、最大で170㎜×110㎜（キャプション込み）とすること。

・図および写真は、仕上寸法の2倍（面積4倍）程度で作成し、希望縮尺率を明記すること。

・図は、トレーシングペーパーや製図用ケント紙などに製図用インキで明瞭に描くこと。その際、線の太さを一定に保つため、製図用ペンを使用することが望ましい。

・図中の文字は写真植字を用いて印刷するので、鉛筆書きするか、上にトレーシングペーパーを重ね該当箇所に文字のみを書き入れること。また、インスタントレタリングやワープロ文字を原図に貼り付ける場合は、仕上段階の鮮明度を配慮すること。

・写真は、原版が十分に鮮明でコントラストが明瞭なものを選ぶこと。なお、巻頭にアート紙で印刷することを希望する場合は、割付・仕上等は編集委員会で調整する。その経費は投稿者負担となることがある。

・表は、仕上を配慮して、文字数や表現法を工夫すること。原表の掲載を希望する

場合は、その旨を明記し、図版に準じた体裁を整えること。

注意・図表に不備がある場合は、投稿者に修正を依頼するか、編集委員会が修正します（経費は投稿者負担となります）。

受贈誌

（二〇〇八年八月二七日～二〇〇八年一〇月二〇日）

日本民俗学（日本民俗学会）二五四
ANTHROPOLOGICAL SCIENCE (The Official Journal of THE ANTHROPOLOGICAL SOCIETY OF NIPPON) 一一六―二
愛知大学文学論叢（愛知大学文学会）一三八
史迹と美術（史迹美術同攷会）七八七
研究紀要（富山県立山博物館）一五
東方學報（京都大学人文科学研究所）京都八二
考古学報（中国社会科学考古学研究所）二〇〇八―三
駿台史學（駿台史学会）一三四
立命館法學（立命館大学法学会）三一八
文化（東北大学文学会）七〇―三・四
一橋研究（一橋大学大学院一橋研究編集委員会）三三―一（通巻一五九）
鹿児島経済論集（鹿児島国際大学経済学部学会）四九―一
国家學會雜誌（国家学会事務所）一二一―七・八
立命館産業社会論集（立命館産業社会学会）四四―一（通巻一三七）
松本市史研究（松本市）一八
国立情報学研究所ニュース（国立情報学研究所）四一
学術研究―地理学・歴史学・社会科学編―（早稲田大学教育学部）五六
史學雜誌（史學會（東京大学文学部内））一一七―八
国立歴史民俗博物館研究報告（国立歴史民俗博物館）一四三
国立歴史民俗博物館研究報告（国立歴史民俗博物館）一四四
国立歴史民俗博物館年報（国立歴史民俗博物館）四
美術研究（東京文化財研究所）三九五
鴨台史学（大正大学史学会）八
立命館文学（立命館大学人文学会）六〇七
Journal of Northeast Asian History (Northeast Asian History Foundation) 五―一
信濃（信濃史学会）六〇―九
ANNALI DI CA' FOSCARII（ヴェネチア大学外国言語・文学部　東アジア研究科）XLVI, 三（三八）二〇〇七
Historia Mexicana (El Colegio De Mexico) 一二九
日本史研究（日本史研究会）五五三
経済論集（ソウル大学校経済研究所）四七―二・三
藝林（藝林會）五七―二
古代文化（古代学協会）六〇―二
史迹と美術（史迹美術同攷会）七八八
日本歴史（日本歴史学編集）七二五
龍谷大学佛教文化研究所紀要（龍谷大学佛教文化研究所）四六
史學研究（広島史学研究会）二六二
歴史学と歴史教育（歴史学と歴史教育の会）六六
史観（早稲田大学史学会）一五九
経済科学（名古屋大学大学院経済学研究科）五六―二

日本学士院紀要（日本学士院）六三―一
韓国史研究彙報（韓国国史編纂委員会）一四一
史料（皇學館大學史料編纂所報）（皇學館大學史料編纂所）二一五
国立歴史民俗博物館研究報告（国立歴史民俗博物館）一四一
東洋史研究（東洋史研究会）六七―二
三康文化研究所所報（三康文化研究所）四三
信濃（信濃史学会）六〇―一〇

会　告

本号は定価二〇〇〇円ですが、会員価格は一二〇〇円に致します。

編集後記

九二巻一号をお届けいたします。本号は九一巻一号（「モニュメント」）に続き、史学研究会例会の特集号となります。論説・研究動向・書評・紹介いずれも環境にかかわるものですが、そのアプローチは多角的であり、文章の長短の別なく、いずれも力作です。ご味読下さい。

本特集号のテーマである環境にかんして、現在われわれが日常的に耳にするのは地球温暖化問題でしょう。地球温暖化の原因とされる温室効果ガス、とりわけ二酸化炭素の排出削減が国際的な環境対策の目標とされているのは周知の通りです。

環境をテーマとした例会が行われたのは二〇〇八年ですが、同年は二酸化炭素排出削減につながるという、バイオ燃料をアメリカが増産した結果、その原料となる穀物価格の高騰を招き、また一方でガソリンの高騰を抑えることが出来ませんでした。しかし秋以降には、やはりアメリカのサブプライム問題に端を発する金融危機によって、バイオ燃料なりガソリンなりを消費する自動車産業が大きな打撃を受けました。

この、終わりの見えない「未曽有」の金融危機は二〇〇九年初頭も社会に暗い影を落としています。国際社会が足並みを揃えて環境問題に対処するという体制も後退してしまうかもしれません。

しかし、歴史学・考古学・地理学などの分野の垣根を越え、環境から世界史の再構築を目指すという、学界の新しい協調体制は決して後退させるべきではないと考えます。「歳寒くして、然る後に松柏の彫むに後るるを知るなり」という孔子の言葉がありますが、このような「寒い」時期だからこそ、学界の真価が問われるのではないでしょうか。

次回例会（四月一八日）のテーマは「戦争」です。決してタイムリーになって欲しくはないテーマですが、われわれが避けて通ることは許されないものです。ご来聴を心よりお待ち申し上げます（詳細は次頁をご参照下さい）。

（藤井律之）

◆史学研究会ホームページ・アドレス
http://wwwsoc.nii.ac.jp/shr/index.html

二〇〇九年一一月二五日印刷
二〇〇九年一一月三一日発行　**定価二〇〇〇円**
史林　第九二巻第一号（通巻第四七三号）
京都市左京区吉田本町京都大学大学院文学研究科内
電話　FAX（〇七五）七五三―二七八七
発行人　史学研究会
振替京都〇一〇七〇―二―五一五五番
理事長　藤井譲治
印刷所　京都市南区上鳥羽菜田二九　中村印刷株式会社

史学研究会例会のお知らせ

左記のとおり、史学研究会例会を開催いたします。多数ご来会くださいますよう、ご案内申し上げます。

日　時　二〇〇九年　四月一八日（土）　午後一時～午後六時一五分

場　所　京都大学文学部　新館第三講義室

テーマ　「戦争」

プログラム

開会の挨拶　　史学研究会理事長　藤井譲治

趣旨説明　　中砂明徳

第一部（午後一時一五分～三時四〇分）

報告一　千田嘉博（考古学）「城郭と戦争の考古学」

報告二　尾下成敏（日本史）「豊臣政権の『九州惣無事』―西国制圧構想をめぐって」

報告三　鈴木直志（西洋史）「ベローナが解き放たれる時―近代転換期ヨーロッパの戦争論」

第二部（午後四時～五時三五分）

報告四　高嶋　航（東洋史）　「戦争とスポーツ――岡部平太と日満華交驩競技大会」

報告五　福間良明（二十世紀学）　「戦後日本と戦争体験論の変容」

質疑および討論（午後五時三五分～午後六時）

閉会の挨拶　　京都大学文学研究科歴史文化学系代表

終了後、懇親会（午後六時三〇分～八時）を開催いたします。

※例会、懇親会とも参加は無料です。

史学研究会

Special Issue
The ENVIRONMENT as Seen in from Historical,
Geographical and Archaeological Perspectives

MINAMIKAWA Takashi, Foreword ..... (1)

Articles:

HASHIMOTO Michinori, The Shoreline Environment and Livelihood in Medieval Japan, from the Standpoint of Fishing in Lakes and Rivers ..... (4)

IGURO Shinobu, Historical Studies of the Capability of the Spring-Flood Irrigation System to Respond to Water Environmental Problems at the Southern Foot of Mt. Lüliang 吕梁 Shanxi 山西, China ..... (36)

KITAMURA Masafumi, Bruno Taut und die Berliner Wohnumwelt. Mit Schwerpunkt auf dem Siedlungsbau in der zweiten Hälfte der zwanziger Jahre des 20. Jahrhunderts ..... (70)

MIZUNO Shoko, Emergence of the Discourse of Global Environmental Crisis in the British Empire between the Wars ..... (97)

SODA Ryoji, Environmental Changes and "Environmental Problems" in Sarawak, Malaysia ..... (130)

TSURUMI Tarou, The Experiences of Hashiura Yasuo in His Neighborhood Study (1925-1934) ..... (161)

Academic trends:

YOSHIMOTO Michimasa, Archaeological Cultures in Southeastern Inner Mongolia before 3rd Century B.C.: On the Focus of Environmental-Archaeological Studies in the Recent Years ..... (195)

NAGATA Ryoichi, Does Climate Explain History?: The Little Ice Age of the Early Modern Europe ..... (214)

Book Reviews:

TAWA Masataka (ed.), *Stone Tidal Weir* (SANO Sizuyo) ..... (240)

KOBAYASHI Shigeru, *An Environmental History of the Ryukyu Islands: Agriculture, Landscape and Disasters* (TSUKIHARA Toshihiro) ..... (245)

Patrick Matagne, *Aux origines de l' écologie: Les naturalistes en France de 1800 à 1914* (NAKAYAMA Shun) ..... (251)

Frank Uekoetter, *The Green and the Brown: A History of Conservation in Nazi Germany* (OKAUCHI Kazuki) ..... (259)

Miscellaneous:

9784490306491

ISBN978-4-490-30649-1

C3320 ¥1905E

定価(本体1905円＋税)

1923320019059

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. XCII No. 1 January 2009

Special Issue

The ENVIRONMENT as Seen in from Historical, Geographical and Archaeological Perspectives

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan

発売 株式会社 東京堂出版 東京都千代田区神田神保町一―一七 電話(〇三)三二三三―三七四一